

DRIP EYE NE-3

クイックリファレンス

コントロールパネル部詳細



基本操作

- 1 電源を入れる** を2秒以上押す
- 2**

予定量の設定
(10 ~ 4000ml)

時間設定で輸液 を押す → (数値設定)

輸液時間の設定 を押す →

流量設定で輸液 を押す →

流量の設定* を押す →

* 流量設定範囲 ●20滴/ml: 10~600ml/h ●60滴/ml: 10~150ml/h

■ 必要に応じて、輸液セットの設定および補正值の設定を行ってください。

輸液セットの設定 を押す → 輸液セットの滴数を選択 (20滴/mlまたは60滴/ml)

補正值の設定 を1秒以上長押し → (補正が必要な薬剤を使用する際に入力)

点滴筒 / チューブの装着
 (チューブクランプが閉じている場合は を押して開放)

自動でチューブクランプが閉まらない場合は、チューブをセットしなおしてください。
チューブドアが完全に閉まるまで、しっかりと奥まで装着してください。

輸液セットのクレンメを開ける

輸液路の確保
静脈ラインを確保し、血管外への漏れや各接合部にゆるみがないことを確認してください。
- 3 輸液の開始**
 - 1.** を押す
[開始 : 停止] スイッチ を押すと、画面に「スタンバイ」と表示され、輸液開始待ちの状態になります。
 - 2.** 設定値を変更する時は?
スタンバイ状態から設定した数値を変更する時は、[解除 : 開放] スイッチ を押して、変更したい項目の設定スイッチから変更を行ってください。
 - 2.** 設定値が正しいことを確認して、もう一度 を押す ➡ ➡ ➡ **輸液を開始** (緑点灯)
注意
■ 画面の青マーク (60滴/ml 設定時は) が、滴下に同期して点滅していることを確認してください。
■ 滴下開始後、数秒で安定したスピードになります。異常がある場合は使用を停止してください。

MEMO 輸液終了予定時間の5分前には輸液ランプが緑点滅します。 (緑点滅)
- 4 輸液の終了**

輸液が終了すると画面に「輸液終了」と表示されます。[解除 : 開放] スイッチ を押して表示を解除してください。

MEMO 輸液容器に薬剤が残っている間はキープペイン機能が働き、約4ml/h (60滴/ml 設定時は約1~2ml/h) で輸液を継続します。(キープペイン機能設定がONの場合)

輸液セットのクレンメを閉じる

チューブクランプ部の開放

点滴筒 / チューブの取り外し
- 5 電源を切る** を2秒以上押す

MEMO 積算量をクリアするには「一時停止」または「輸液設定」の状態で を1秒以上押すか、電源を入れ直します。

クイックリファレンスを印刷したい場合は、メハーゲングループの各種医療機器・システムをご紹介する総合サイト『メディエイドスクエア』よりダウンロードして印刷を行ってください。

メディエイドスクエア URL: <http://www.medi-aid.jp/>
MEHERGEN GROUP Medi-Aid SQ

DRD-YOP-002632A(第2版) 2022.11.04

エラーの解除方法

【Err○】の表示が出た場合

- 1 [Err○]の表示が出て  (赤点滅) が発生
- 2 解除:開放スイッチ  を押すとアラーム音が止まる
- 3 ガイダンス画面にてエラーの原因を確認し、設定スイッチ  を押すとTOP画面に戻る
- 4 適切な処置を行い、スタートの操作を行う
(適切な処置が行われないと、再度エラーが発生します)

■輸液セット確認機能 (Err7判定) の無効化

薬剤(特に補正が必要な薬剤)によっては、正しい設定でも Err7 が発生する場合があります。このような場合は「輸液セットの確認機能を無効化」することで、輸液が可能となります。輸液セット確認機能の無効化設定は、Err7 のエラー解除後に表示されるガイダンスに従って、設定してください。

MEMO 20滴 /ml 設定時の機能です。

MEMO 「無効」設定は、電源OFF、輸液終了及び60滴 /ml 設定時に自動的に解除されます。

アラーム (予備警報)

- 1 アラーム 電池残量低下 → 原因 電池残量が少なくなっている。
処置 ▶ ACアダプターを接続してください。
- 2 アラーム 液面センサー(上限)検知 → 原因 点滴筒内の薬液量(液面)が液面センサー(上限)より高い位置にある。
原因 点滴筒内に水滴が付着している。
処置 ▶ 点滴筒内の薬液量(液面)を「LIQUID LEVEL」範囲内に調整してください。
▶ 点滴筒内の水滴を取り除いてください。
- 3 アラーム 落滴検出不能 → 原因 チューブクランプ部を開放しても落滴が検出できない。
処置 ▶ 薬液の高さ、ルートの状態、穿刺部を確認してください。
- 4 アラーム 制御限界位置 → 原因 落滴は検出されるが、チューブクランプ部を開放可能な限界位置まで開放しても流量制御ができない。
処置 ▶ 一時停止をして、薬液の高さ、ルートの状態、穿刺部を確認し、異常を取り除いて再開してください。
- 5 アラーム 流量誤差発生 → 原因 20滴 /ml の 10~30ml/h の設定流量において、流量誤差が生じている。
処置 ▶ 薬液の高さ、ルートの状態、穿刺部を確認してください。

エラーの発生例と処置

- 1 Err1 チューブの圧閉不良を検出 → Err1が発生  (赤点滅)
原因 本体の電源を入れ、輸液セットを本体にセットするとき、チューブの部分が溝に正確にセットされていない。
処置 ▶ 輸液チューブを正確に入れ直してください。
- 3 Err3 落滴の検知不良が発生 → Err3が発生  (赤点滅)
原因 手動クレンメが全く開放されていない、またはチューブクランプの一部が完全に押しつぶされた状態で輸液を開始している。
原因 輸液中に手動クレンメを開めたり、チューブの一部が完全に押しつぶされてしまった。
処置 ▶ 輸液容器を高い位置に取り付けてください。
▶ 薬剤の粘度が高かないか確認してください。
▶ 薬液や異物で輸液速度検知部が汚れていないか確認してください。
▶ 直射日光または強い光が輸液速度検知部にあたっていないか確認してください。
▶ クレンメが閉まっていないか確認してください。
▶ 点滴筒に異常がないか確認してください。(水滴、結露、キズ)
▶ ルートの状態に異常がないか確認してください。
▶ 静脈針が正しく穿刺されているか確認し、異常がある場合は直ちに使用を中止してください。
- 4 Err4 電池残量が低下 → 残り30分 「アラーム1」が発生  (黄点滅) → 残り3分 Err4が発生  (赤点滅)
原因 電池の容量が減っている。
処置 ▶ ACアダプターを接続してください。
- 5 Err5 チューブクランプ開放動作時に連続した落滴を検出 → Err5が発生  (赤点滅)
原因 手動クレンメを閉める前にチューブクランプをオープンした。
処置 ▶ 手動クレンメを閉めてから解除:開放スイッチを押してください。 ▶ 点滴筒に異常がないか確認してください。(水滴、結露、キズ)
- 6 Err6 チューブクランプが閉じているときに予期しない落滴を検知 → Err6が発生  (赤点滅)
原因 チューブクランプ部が輸液チューブを部分的に圧閉している。
処置 ▶ 輸液チューブを正確に入れ直してください。 ▶ 点滴筒に異常がないか確認してください。(水滴、結露、キズ)
- 7 Err7 使用している輸液セットと本体の設定との不一致が発生 → Err7が発生  (赤点滅)
原因 設定した輸液セットと実際に使用している輸液セットが不一致である。
処置 ▶ 実際の輸液セットと設定(20滴/60滴)を一致させてください。 ▶ 点滴筒の取り付け位置を下側に調整してください。
- 8 Err8 急激なセンサー感度の変化を検知(フリーフローなど) → Err8が発生  (赤点滅)
原因 輸液速度検知部のセンサーが異常を検知している。
処置 ▶ フリーフローが発生していないか確認してください。 ▶ 点滴筒に異常がないか確認してください。(水滴、結露、キズ)
- 9 Err9 チューブの検出異常が発生 → Err9が発生  (赤点滅)
原因 チューブが検出できない。
処置 ▶ 輸液チューブがチューブ溝から外れていないか確認してください。 ▶ 輸液セットの使用可否を確認してください。
- 10 Err10 点滴筒内の液面が低いことを検出 → Err10が発生  (赤点滅)
原因 点滴筒内の液面が低く、「LIQUID LEVEL」の範囲外(下側)にある。
処置 ▶ 輸液容器内の薬液がなくなっていないか確認してください。 ▶ 点滴筒の薬液量が「LIQUID LEVEL」範囲内にあるか確認してください。